

令和3年度学校保健統計調査の結果確報（高知県分）について【概要】

1 発育状態

男女とも近年横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

○身長

- ・男子は7歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も低い14歳では1.5cm低くなっている。
- ・女子は9歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も低い15歳では1.5cm低くなっている。

○体重

- ・男子は8歳、9歳、15歳、16歳を除く年齢で全国平均を下回っており、最も軽い11歳、17歳では0.6kg軽くなっている。
- ・女子は5歳、6歳、15歳、17歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も重い7歳では0.5kg重くなっている。

2 肥満傾向児の出現率

年齢層によりばらつきはあるが、おおむね増加傾向にあり、全国は増加傾向となっている。

- ・男子は5歳、6歳、13歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も高い15歳では3.83ポイント高くなっている。
- ・女子は5歳、6歳を除く年齢で全国平均を上回っており、最も高い14歳では3.11ポイント高くなっている。

3 健康状態

★裸眼視力1.0未満の者は、おおむね増加の傾向にあり、全国も同様の傾向。

令和3年度の割合を全国平均と比較すると、小学校、高等学校で下回り、中学校では上回っている。

★虫歯（う歯）の者は、おおむね減少傾向にあり、全国も同様の傾向。

令和3年度の割合が、全ての区分で全国平均を上回っている。

○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園・小学校
「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで幼稚園では「歯列・咬合」、小学校では「裸眼視力1.0未満」の順となっている。
- ・中学校・高等学校
「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、中学校、高等学校で前年度を上回っているが、小学校では下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、小学校、中学校で前年度を上回っているが、幼稚園、高等学校では下回っている。

○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、中学校で全国平均を上回っているが、小学校、高等学校では下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、全ての区分で全国平均を上回っている。

4 新型コロナウイルス感染症による影響

- ・令和3年度については、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間が年度末まで延長された。このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできない。

■県教育委員会のコメント

肥満やむし歯（う歯）、裸眼視力1.0未満等の健康課題には、社会環境や生活様式の変化等様々な要因が影響していると考えられ、改善のためには子どもの頃からの基本的な生活習慣や運動習慣の定着が重要であることから、知事部局や関係機関と連携した健康教育の充実に引き続き取り組んでいく。

（担当課：保健体育課）